

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	山 口 県
-------	-------

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	美祢市立豊田前小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	11
児童数	5	8	12	13	6	5	4	53	

研究の概要

1. 研究主題

<p>自ら学ぶ意欲を持つ心豊かな児童の育成 ～一人一人が学ぶ喜びと育ちを実感できる学習指導の在り方～</p>
--

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1～6年 算数科 児童の理解の状況に差が出やすい教科であるため。 1～6年 国語科 教科の基礎・基本の要の教科であるため。</p>
--

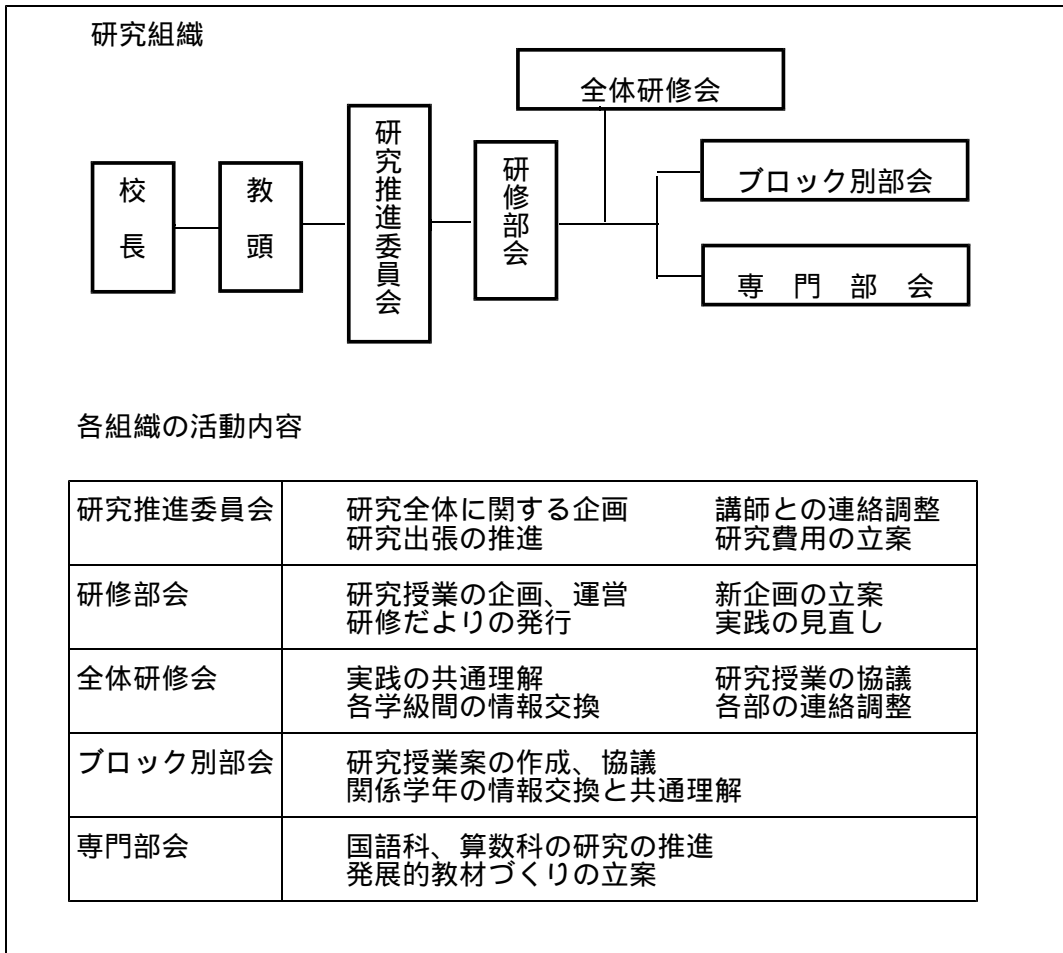
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 自ら学ぶ意欲を持つ心豊かな児童の育成 ～一人一人が学ぶ喜びと育ちを実感できる学習指導の在り方～</p> <p>仮説 ・算数科において、課題に主体的に取り組み、見通しを持って解決していこうとする力が身に付けば、児童は学ぶ喜びと育ちを実感するであろう。 ・国語科において、伝え合う言語活動の場を多く設定し、児童一人一人の思いや考えを大切にしていけば、児童は意欲と自信を持って人とかわかり、ことばで豊かに自己を表現する力が育つであろう。 ・児童一人一人の思いや願いを大切に、その意識を連続して活動できる総合的な学習の時間・生活科を仕組めば、学習への意欲が高まり主体的に活動する児童が育つであろう。</p> <p>研究の内容・方法 個に応じた指導のための「少人数授業」を実践研究する。 「教科担任制」によるより充実した授業を実践研究する。 「発展的学習」や「補充的な学習」のための学習課題と教材を開発する。 教科学習を生かし、学ぶ意欲を育む「総合的な学習の時間・生活科」を実践研究する。 指導の改善に生きる「評価」を研究開発する。 外部人材・地域教材の開発と発掘をする。 学びの機会を充実し、学ぶ習慣を育てる。</p>
--------	--

平成15年度	<p>テーマ 自ら学ぶ意欲を持つ心豊かな児童の育成 ～一人一人が学ぶ喜びと育ちを実感できる学習指導の在り方～</p>
--------	--

平成15年度	<p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的学習や補足的な学習を取り入れた学習を仕組みば、個に応じたきめ細かな学習指導ができるであろう。</li> <li>・ 児童が主体となって取り組む授業を仕組みば、児童は学ぶ喜びと育ちを実感するであろう。</li> <li>・ 単元による効果的な学習形態の工夫をすれば、児童は学ぶ喜びと育ちを実感できるであろう。</li> <li>・ 形成的評価を取り入れた授業や児童の側からの評価をもとに授業改善をすれば、個に応じたきめ細かな学習指導ができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法（計画）</p> <p>「発展的学習」や「補足的学習」のための学習課題と教材を開発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 算数科における発展的学習の教材づくり（思考力を培うワークシートづくり）</li> <li>・ 発展的学習を取り入れた授業研究 個に応じた指導のための「少人数授業」を実践研究する。</li> <li>・ 児童が主体となって取り組む授業研究</li> <li>・ 単元による効果的な学習形態の工夫 指導の改善に生きる「評価」を研究開発する。</li> <li>・ 算数科における児童の自己評価を取り入れた「評価」カルテの作成</li> <li>・ 形成的評価を取り入れた授業研究</li> </ul> <p>研究の内容は、算数科、国語科の教科の内容にそって行ったので、次のように変更した。</p> <p>研究の内容・方法（実際）</p> <p>算数科において、課題に主体的に取り組み、見通しを持って解決していこうとする力が身に付くような授業を仕組む。 国語科において、伝え合う言語活動の場を多く設定し、児童一人一人の思いや考えを大切にしていこうような授業を仕組む。 個に応じた指導のための指導形態として、算数科では、5、6年はコース別学習、1年～4年はT・T方式の授業を行う。 基礎・基本の力を培うために全校一斉の計算タイムを行う。 感性、語彙力を高めるために全校一斉の読書タイムを行う。 保護者啓発をし、学習の習慣づけを行う。</p>
平成16年度	<p>テーマ</p> <p>自ら学ぶ意欲を持つ心豊かな児童の育成 ～一人一人が学ぶ喜びと育ちを実感できる学習指導の在り方～</p> <p>仮説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発展的学習や補足的な学習を取り入れた学習を仕組みば、個に応じたきめ細かな学習指導ができるであろう。</li> <li>・ 児童が主体となって取り組む授業を仕組みば、児童は学ぶ喜びと育ちを実感するであろう。</li> <li>・ 単元による効果的な学習形態の工夫をすれば、児童は学ぶ喜びと育ちを実感できるであろう。</li> <li>・ 形成的評価を取り入れた授業や児童の側からの評価をもとに授業改善をすれば、個に応じたきめ細かな学習指導ができるであろう。</li> </ul> <p>研究の内容・方法</p> <p>算数科において、課題に主体的に取り組み、見通しを持って解決していこうとする力が身に付くような授業を仕組む。 国語科において、伝え合う言語活動の場を多く設定し、児童一人一人の思いや考えを大切にしていこうような授業を仕組む。 個に応じた指導のための指導形態として、算数科では、5、6年はコース別学習、1年～4年はT・T方式の授業を行う。 基礎・基本の力を培うために全校一斉の計算タイムを行う。 感性、語彙力を高めるために全校一斉の読書タイムを行う。 保護者啓発をし、学習の習慣づけを行う。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- (1) 算数科において、課題に主体的に取り組み、見通しを持って解決していこうとする力が身に付くような授業を仕組むことについて。
- 年間3回の授業研究会を通して、課題に主体的に取り組み、見通しを持って解決していこうとする力が身に付くような授業を研究した。3年生では、「たし算とひき算」の単元で、算数的活動を取り入れた実践をした。遠足のお菓子を買うという場面設定をし、たし算ひき算をした。児童は意欲的に取り組み、学ぶ楽しさを体感した。6年生では、「体積」の単元で、実際に直方体を作って算数的な見方考え方を培う算数的活動をした。2年生では、「たすのかな？ひくのかな？」というところで、文章題を読み、テープ図に書いて考えるという算数的活動を取り入れた学習をした。算数的活動をどんどん授業に取り入れることで、算数的見方・考え方がだんだんと培われてきた。
- (2) 国語科において、伝え合う言語活動の場を多く設定し、児童一人一人の思いや考えを大切にしていこうような授業を仕組むことについて。
- 年間3回の授業研究会を通して、伝え合う言語活動の場を多く設定し、児童一人一人の思いや考えを大切にしていこうような授業を研究した。4年生では、「話の中心に気をつけて聞く」「聞いている人に分かるように筋道を立てて話す」ために、「無人島でくらすとしたら」という単元で、グループごとに発表し、発表後に質疑応答を受けるという学習をした。質疑応答することにより、場を意識した生きた言語活動を行う学習ができた。1

年生では、「～よく聞いてあてよう～わたしは、なんでしょう」という単元で、クイズ形式という場の工夫をした「話す楽しさをふくらませる」学習をした。1年生は、生き生きと取り組んでいた。5年生では、「わらぐつの中の神様」で自分たちが読み取ったことを近くの保育園の園児に劇化して伝える実践をするために、自分たちが読み取ったことを友達と伝え合う学習をした。

(3) 個に応じた指導のための指導形態として、算数科では、5、6年はコース別学習、1～4年は、T・T方式の授業を行うことについて。

5、6年のコース別学習について

昨年度に引き続き、今年度も少人数指導を行っている。5、6年は、児童にアンケートを取り、自分の学び方に合った方法を選び、2つの教室にわかれて指導を行った。一つは、チャレンジコースで、教科書の教材だけでなく、単元の終わりに発展的な学習もした。もう一つは、ジョギングコースで、ゆっくりじっくり学習課題を学んでいった。児童は、今まで以上に算数科の時間を楽しみにするようになり、理解力、技能力も上がってきている。

1年～4年のT・T方式による学習について

1年～4年は、2人の教師によるT・T方式の授業である。一人の教師が説明したことを補足説明したり、補充的な学習を必要とする児童の支援をしたりすることにより、きめ細かな授業が成立している。また、単元によっては、練習問題でチャレンジコースとジョギングコースにわかれ、自分のペースに合わせて問題を解いた。本校の少人数指導という学習形態の工夫は、着実に算数科の学力を上げていると言える。

(4) 基礎・基本の力を培うための全校一斉の計算タイムを行うことについて。

週に2回、全校一斉に計算タイムを行っている。1校時の最初の15分間行っている。「数と計算」の領域を中心に繰り返し計算練習を行った。夏休みには全学年自作の計算プリントも作成し、活用した。繰り返し学習することで、計算の技能は全学年確実に上がってきている。

例えば5年生では、計算タイムや家庭学習で行ったプリントをファイルし、自分の足跡を残し、最後に感想を書いて家庭に持ち帰った。何枚もの自分の学習の足跡に満足し、「自分の育ち」を実感していた。そして、何人もの児童が「また、プリントやりたい。」という感想を書いていた。

(5) 感性、語彙力を高めるために全校一斉の読書タイムを行うことについて。

週に3回、全校一斉に読書タイムを行っている。1校時の最初15分間行っている。また、図書館部中心に「読書センター」としての図書館の環境整備に力を注いだ。書庫の移動、著者名別の本の整理、おすすめ本の紹介、図書だよりの発行等、児童が「本好きになる環境」は、着実に整ってきた。また、児童自ら買いたい本を選ぶブックトークの会は、児童の読書に対する意欲を増した。また、高学年では、親子読書会、他校との交流読書会、高学年読書会を開き、本を通して、自分の考えを伝え合う力をつけていった。さらには、高学年による低学年への読み聞かせにより、本を読むことに対する意欲がどんどん増してきた。

(6) 保護者啓発をし、学習の習慣づけを行うことについて。

研修だよりを発行し、保護者の方に研修に対する理解と協力をあおいでいる。学習は、学校だけでなく、学びの習慣づけとして、家庭での学習もとても大切であると考えている。漢字や計算のみならず、家庭での読書の習慣づけを図りたいと考えている。今年度、PTA研修部に働きかけて、学校で朝の読み聞かせを行ったが、意義深い試みであった。

## 2. 今後の課題

- (1) 算数科では、課題に主体的に取り組み、見通しを持って解決していこうとする力が身に付くような授業をさらに実践研究する。そのために効果的な算数的活動の手だてを考えていく。また、指導に活かす評価の研究として、ノート指導による見取りを研究していく。
- (2) 国語科では、伝え合う力を「読むこと」「書くこと」「話す・聞くこと」の3領域に絡めて実践を深めていく。
- (3) 個に応じた指導のための指導形態としての少人数指導の実践においては、5、6年では、コース別学習の明確な意義付けをすること、1年～4年では、効果的なT・T方式の在り方を研究していく。
- (4) 基礎・基本の力を培うために全校一斉の計算タイムを行うことについては、「数と計算」の領域だけでなく、他の領域でも習熟を深める。
- (5) 感性、語彙力をたかめるための全校一斉の読書タイムでは、読書量を増すのはもちろん、「学習センター」としての読書の意義付けもしていく。
- (6) 保護者啓発をし、学習の習慣づけを行うことについては、家庭での学習習慣をつけるための手だてを考えていく。

### 学力等把握のための学校としての取組

学力調査の実施（全学年）  
児童の自己評価を入れたノート指導  
全校計算タイムの取組による個人観察

### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・ 学校だより、研修だよりで保護者及び地域の方に説明をした。
- ・ 年度当初のPTA総会で概要を説明した。
- ・ 少人数指導についての説明プリントを保護者に配布した。
- ・ 厚狭管内学力向上フロンティア事業地区協議会（平成16年2月3日 13時20分～16時30分 小野田市立高泊小学校）に参加し、成果を発表した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】  15年度からの新規校  14年度からの継続校
- 【学校規模】  6学級以下  7～12学級  
 13～18学級  19～24学級  
 25学級以上
- 【指導体制】  少人数指導  T・Tによる指導  
 一部教科担任制  その他
- 【研究教科】  国語  社会  算数  理科  
 生活  音楽  図画工作  家庭  
 体育  その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】  有  無